

新潟医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 原口ゼミ

## 病院を公共の癒しの場に ～花の40mリハビリロード～

新潟県新潟市



リハビリロードは入院患者だけでなく地域住民の憩いの場としても利用されている



### 共生社会の創生につながる庭づくり

医療法人愛広会新潟リハビリテーション病院の奥庭の空地を入院患者のリハビリロードとして、また地域住民の憩いの場・交流の場としても利用できるように再整備する、というのが本プランの目的だ。「整備とはいいませんが、ほとんどゼロからつくったという方が正確でしょうね」というのは、医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科原口ゼミの代表・原口彩子教授だ。

新潟リハビリテーション病院は、2001年開設の私立病院で、歩行者道路の両脇は長らく空き地となっていて、以前から改善が待望されていたという。病院は、本来病气や障がいなどで、心身が弱っている状態の人々が訪れるところ。その意味では何よりも癒しが必

要な場所であるべきだ。

昨今、病院環境への関心が高まり、確かに院内環境は、整いつつある。しかし、病院の外観となるとまだまだというのが現状だろう。病院が地域に開かれ、誰にとっても癒しを提供する憩いの場であって欲しいと望む声は次第に大きくなり、ついに、2024年3月、病院前の230㎡の空き地は、メディカルハーブのボーダーガーデンとして生まれ変わり、それに伴い、病院の玄関へと続く歩行者道路は、40mのリハビリロードとして蘇った。

薬用にも用いられるメディカルハーブと宿根草を中心に植栽されたボーダーガーデンは、整備活動を行う障がい者と地域住民の交流の場の象徴であり、共生社会の道標となるだろう。



ボーダーガーデンの前にはベンチがいくつも置かれていて、散歩の途中で一休みする利用者も多い



40mのリハビリロードの両脇には、メディカルハーブがたくさん植えられている



ボーダーガーデンは障がい者との交流の場でもある



園芸福祉士監修のボーダーガーデンは、治療の場でもある

病院こそ最も癒しを必要とする場だ



地域の花好きなボランティアも庭づくりに参加する

